Dr. Earth for the

理論編

実践編

宇宙意識という視座

物質の系

生命の系

循環と共生の摂理

科学と経済の陥穽

オーガニック農法・農業編・畜産編

オーガニックで健康ライフ

地球のお医者さん

平井孝志

第二部　実践編

プラムで農の歓び味わう

ベニハナ農園　作道　直三郎

立ちふさがる壁を突き崩すのは
深遠な人間性と
情熱と信念である

健康を守り国を守る農業

愛媛県松山の山辺で生を受け、果樹を中心に農業に従事してきました。果樹の栽培経験は一〇〇品種を数え、水稲や野菜も栽培しています。気がつけば六五歳。まだまだ四〇代と思いこんでいましたら、昨年、二度にわたって交通事故に巻き込まれてしまいました。このままではいつまでたっても「厄年」を卒業できないということで、本年からは五〇代と思い込み、少し体を大切にしたいと思っています。

農業に従事して半世紀。この間には多くのことに気づかせていただきました。最も大きな発見は、農業とは健康産業だということです。

戦後、食べるものがほとんどない時代には、農業とは空腹を満たすための仕事であると考えていました。その後、経済の奇跡的復調によって、どこにでも物があふれ、欲しい物は何でも手に入る時代になりました。農業の機械化も進み、農家もやっと考える時間を持つ余裕ができました。

満開の「プラム太陽」の下でくつろぐ筆者

それから私の中で、農業は単に空腹を満たすためだけの産業ではなく、人々の健康を維持し増進するものだと位置づけが変わってきたのです。農薬漬けの農業から環境保全型農業へ、作り手の利益だけでなく食べる方

の健康を考えて、というように、時代の流れも変わってきたように感じます。

世界のどこかで今も戦争をしています。若い人には戦争の話は異国の話のように聞こえるでしょう。私の母は何事にも控えめで口数の少ない人でしたが、「戦争は馬鹿者がすること」とぽつりと言ったことがあります。つい五〇年ほど前のことです。飢えるということにも実感が湧かないでしょう。今後も実感が湧くような経験をなさらないことを心から願っています。

日本は、ドンパチはしていませんが経済という名の戦争を続けています。今のところ国力という面では一定の地位を保っているようですが、相次ぐ市場開放は国の礎たる農業を弱体化させています。食糧を輸入できている間はいいでしょうが、輸入する国力がなくなったときどうするのでしょうか？

戦後復興に農業が果たした役割は大きいと思います。飢えをしのぐにも働き口を得るにも、焼け野原になった都会よりも、農村での「助け合い」が戦後日本の礎となったと思います。

農地を守ることは、人々の健康を守ると同時に、国を守ることでもあります。つまり、農業は国土、森林、河川湖沼、近海漁業など「国の健康を守る」健康産業でもあるのです。

異端児だった私

現在、高齢者と呼ばれる年齢になっている農村部の方々は、国際・経済・社会情勢、栄養状態など、どれをとっても満足とはいえない時代を過ごした経験をもっています。そのような青年期を過ごした者は、普遍的な哲理に対しても積極的に取り組まないように見えます。

四〇年ほど前、村の青年たちが集まり〝人生について語る会〟に呼ばれました。今から思えばそれが私の中の一つの節目であったように思います。多くの青年が、誰もが夢見るような平凡な未来を語っているように思えました。先のような時代背景ですから無理もないことかもしれません。その中で一〇〇人中ただ一人、人生は冒険、何事にも立ち向かってゆくべきだと主張した異端児がいました。それが私でした。

村社会は気の合う者の寄り集まりで、文明の光を嫌う素地があります。古いものを教典のように扱い、新しいものを試すこともなく排除しようという傾向があります。このような村社会は累々と村の文化風習となり、今も変わらず受け継がれているのです。

団結力が強いという長所はありますが、村社会から新しい技術や栽培方法が生み出されるかというとそれは難しいでしょう。またそうした技術が広まる速度は、牛歩の歩みをも光速の如く感じさせるほどです。しかしひとたび受け入れられれば、実行力という面では非常に堅いも

のがあります。

本書には、そうした狭い社会からいったん抜け出してみる手法から、農業や環境への具体的な取り組みのヒントが隠されています。伝統的手法や束縛にとらわれない方々、若い方々が、さまざまな実践を通して証明されたことも紹介されています。

土に聞き、葉に問い、花に学ぶ

私も一〇〇品種以上の作物を栽培して参りました。現在は「プラム太陽」というプラムを中心に栽培しています。各地の先駆者の方々にご協力いただき、最近になってやっとプラム狩り（夏期の三〇～四〇日間）や産直ができるまでになりました。

プラム太陽は食べてよし、加工してよし、酒にしてよしと個性豊かで、しかも笑顔の可愛い女性のようでもあります。来世紀にはさらに多くの方がこのプラムを栽培され

最愛の妻と「プラム太陽」の出来を見る筆者

れば、農の歓びを味わえるであろう素質を充分に宿していると思っています。

伊予柑も栽培しています。三年前には絶世の出来栄えを見せてくれました。施肥、追肥、雨量、気温など全てが調和した最高の伊予柑でした。食べていただいた方からは「蜂蜜を注射しているのかと思うほど可憐な甘さとほど良い酸味があり、とても美味しい」とお褒めいただいたほどです。以来、毎年ご注文をいただけるようにもなりました。

「美味しい」という言葉は生産者冥利に尽きます。「至り来て未だ山麓」という気持ちで、明日からも健康産業の末席を汚すことのないように努めたいと思います。

プラムや伊予柑を始め、作物の詳しい栽培方法については、若い方々の方が情報も教養もお持ちだと思います。大いに学ばれ、大いに励んでください。

インターネットや専門誌での情報交換も頻繁に行われ、私たち年寄りが何年もかかって得た経験が今や瞬時に入手できるそうです。素晴らしい時代ですね。

類い希なる情報収集力を生かしながら、「土に聞き、葉に問い、花に学ぶ」ことも忘れないようにしていただければと思います。そして、あと一歩のところに立ちふさがる壁に出会ったとき、その一歩を踏み出し壁を突き崩すのは、深遠な人間性と情熱と信念であることも記憶の片隅に置いておかれたらよろしいかと存じます。

ご注意

1　掲載文書は執筆時の生データを基にしていますので、推敲を経て実際に出版された文章とは若干違う場合があります。悪しからずご了承下さい。

2　リンクはどのページでも確認不要です。

3　商品宣伝・商用目的の引用についてはお断りする場合があります。

4　本サイト に掲載されている記事・コラム・解説文・写真・その他すべての無許可転載を禁止します。あらゆる内容は日本の著作権法及び国際条約によって保護を受けています。

Copyright 1997-2047. "Copyright Yoshinori Hirai ". All rights reserved.
Never reproduce or republicate without written permission.
微生物的環境技術研究所　http://www.bikanken.com/